

三笠宮殿下。同妃殿下御参拜

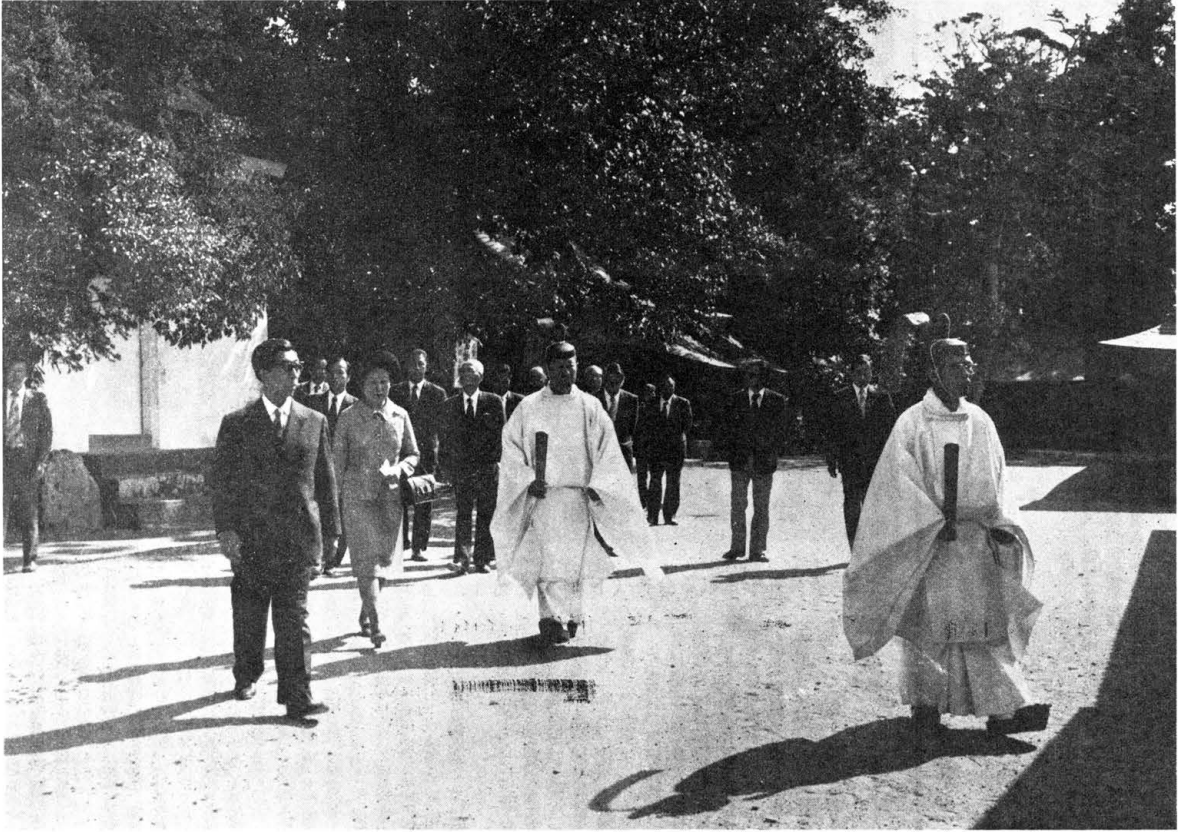


毎月十五日発行
発行所

宗像大社
福岡市吉塚三丁目五番三十一号
電話 五 九 〇 一 三 三 一
定価一年送料共 1000円

神具、装束
結飾式場用品
九州店
本社
福岡市吉塚三丁目五番三十一号
電話 五 九 〇 一 三 三 一
京都支店
京都市下区油小路六条北入(一丁目)四番
電話 京都 〇 七 五 一 三 三 〇

境内を進まれる両殿下



昭和の大造営完成後 初の御参拝

十月十五日、午前十時三十分、祈願駐車場に三笠宮親王殿下、百合子妃殿下をお乗せし、御車は到着した。車から降りられた両殿下は、華津宮司、出光親興副司、成合、立石氏子会長五十名の奉迎で、二人々々笑顔で御参拝を賜り、宮司の先導で正面参道より勅使館へ入られた。
暫し、御休息ののち、手水の儀をおこなわれ、津宮本殿御参拝、引続き高宮へ向われ、道すがら、前回御参拝の折(昭和四十四年十月十日、昭和天皇御病中)とを偲び、本殿は解体修理中とは様相の異なった境内の結構を宮司の説明に、ひとつひとつ御覧いただき、完了したるまでの関係者の労苦にたいして、お言葉をたまわられた。
また、高宮におかせられては、境内に發生する樹木に御興味を寄せられ、その名称、生態等について種々御守ねになられた。
高宮、第三宮、第三宮御参拝をおえられた両殿下は、宝物館に向われ、こゝにおいて、当社松本権直(同慶芸員)の解説に、第三宮(鳥羽御遷出土の築)遺品を御覧あそばさした。
殿下には、去る昭和四十四年

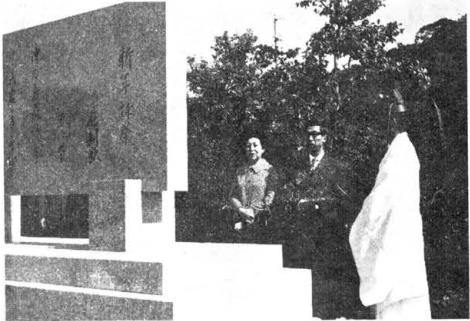


三月、親と沖ノ鳥御遷居、二泊三日にわたる御滞り、第三宮調査の御視察をまわり、その折の御印象を、沖ノ鳥御遷居に際して、題し御発表になられ、その冒頭に「沖ノ鳥は、神の島である。そして二十世紀の奇蹟がおこった島である。私はこの奇蹟を現地でまのあたりに見る事ができた。一生涯忘れ得ぬ感動であつたと述べておられる。この御一文によっても、殿下の沖ノ鳥にたいしての御愛をうかがうことが出来る。
この後、宝物館前にこのほど建立された殿下御参拝の歌碑が披露申し上げ、御覧いただき、再び勅使館にお入りなられ、一刻の御休憩ののち、正午、お参りなられた。
この日は、両殿下をお迎えした飲みの日にふさわしく、宗像の山河は秋の陽光に包まれていた。
因に、このたびの御参拝は、本年四月に竣工した九州市立美術館開館記念式典を、戸畑におけるボツツ関係の御会合のため、西下されたのを機会に、復元された第三宮(鳥羽御遷出土の築)遺品を御覧あそばさした。お参り申し上げた次第である。
注

三笠宮殿下御参拝は、去る一月十日、出歌会始めの儀において、心制歌として、お詠なられた御詠を、九十五センチ×二八センチの御影石に彫刻したもので、宝物館前に盛土、植栽を、その上に建した。施工は福岡市松石材店、植栽士は内山緑地建設株式(公益)である。
なお歌碑は、去る一月十日、出歌会始めの儀(御題「まつり」に、心制歌として御参拝に際して、お詠なられた)と御参拝に、裏に三笠宮親王殿下におかけられた、昭和四十四年十月十日、沖ノ鳥御遷居、親と沖津宮を御参拝になり、引き続き第三宮(鳥羽御遷出土の築)遺品を御覧あそばさした。その折の御感懐を、昭和五十



①



②



③

宗像大杜歌会 俳句作品集(西)

土穴 八尋 恒夫 田熊 力丸 一郎 福岡市 入江 柳



山の花もみち映て澄みわたる 藤沢市 玄洋子 山茶花の二片散り降静 田島 有吉 唐水 深谷の山茶花の花はるかなり 庭の隅に咲く石路の花 田島 早鳥 小春風鳥賊をよみまじりぬ

創造と可能への挑戦

西日本新聞社刊・滝口凡夫著

出光佐三の事業理念

西日本新聞社刊・滝口凡夫著
第四章 地は肥えたり
恐怖と腸子フス
大正時代の慢性不況のうちに...

光さんの話は、私は「青天のへる、長野があらわれて言った。
「出光さんだ、じょうぶです。
「はい、どうもありがとうございます。
「結構です。
「これで話が終わった。久保...

創業十年
創業から試験を克服するまでの
十年間は、出光商会
「出光商会」として誕生した
の時代であった。社会の風潮...

（年中行事）
十一月の主な行事
全国的な秋晴れの月に多い
が、別称「霜月」ともよび、
北の方から降霜が下つてきて
り、月半には霜が降りることが...

十一月の主な行事 (continued)
冬を迎える準備がはかばかしく
なってきた。健康、七五三の上で
冬を迎える準備がはかばかしく
なってきた。健康、七五三の上で...

十一月の主な行事 (continued)
天宮師の忌日、民間で行わ
れる神事。毎年十一月八日
には、比較山陽地方で法華十
講を修し、これを十一月八日...

十一月の主な行事 (continued)
大講講(だいこうこう)
天宮師の忌日、民間で行わ
れる神事。毎年十一月八日
には、比較山陽地方で法華十...

十一月の主な行事 (continued)
本ないし日本の新を、尺五寸ほど
に折り、神前神樂、御詞
を奏し、次に、赤火の筒に移
し、少し燃え上ったときに神前
に供えた神酒、蜜酒、饅頭、菓子...

